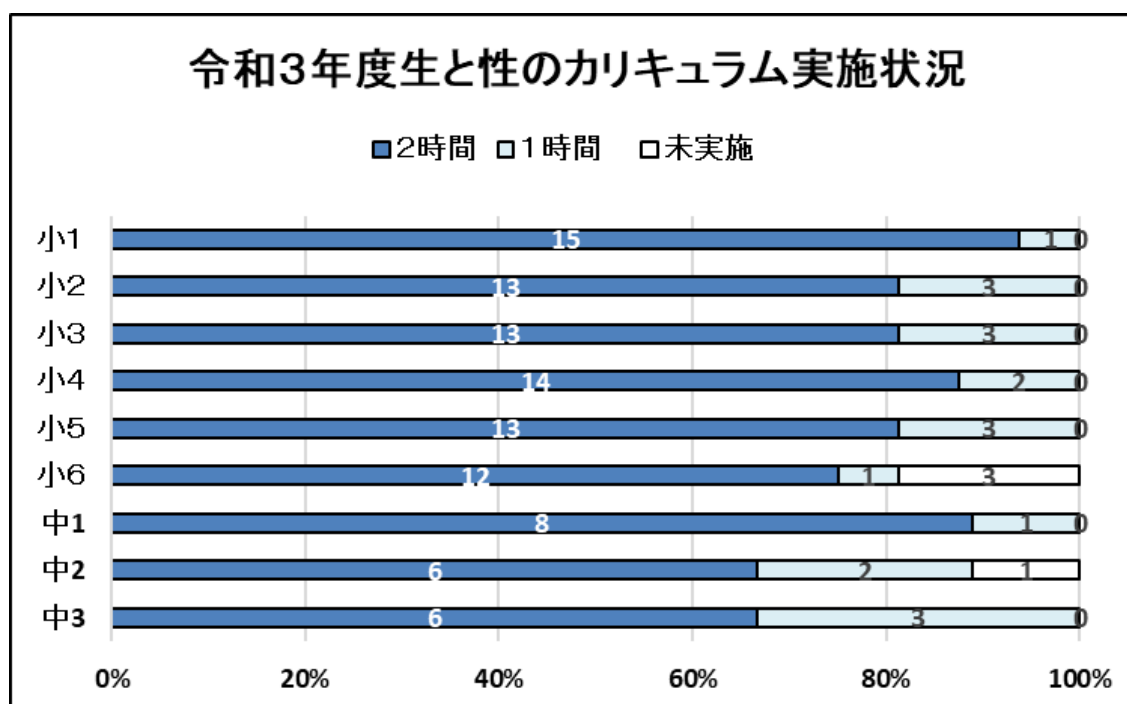


令和3年度「生と性のカリキュラム」実施状況報告

令和4年6月 小牧市母子保健推進協議会

1 「生と性のカリキュラム」実施状況について



○ 2時間完全実施している学校は、小学校16校中9校、中学校9校中5校であった（2年度は小10校、中3校）。

○ 未実施の学校が最も多かったのは小6（3校）であった。

○ 保健センター保健師・助産師を講師に招いた授業や、セルフディフェンス講座、警察等、専門家と連携して授業を行い、効果を上げている学校が多い。

○ 保健体育や生活科、道徳など、教科と関連付けて指導したり、既存のリーフレットを活用したりするなどの工夫が見られた。

○ ジェンダーやSNSに関することなど、現在の指導案どおりでは指導しにくいカリキュラムについては、各校の実態に合わせてアレンジして実施している学校が目立った。

2 各学校の取組報告

・ 成果と課題・児童生徒の様子について

（生）共に生きる学習

（性）いのちの学習

△課題

小1（生）「知らない人にはついていかない」

※セルフディフェンス講座（外部講師による学習）

・ 専門家の話を聞いた後、学級でふりかえりを行った。家庭でも話すよう指導し、指導で使用した資料を介して学校と家庭で内容を共有できたと思う。

・ 専門家の話を聞き、自分の身を守る方法を学んだり、学級や家庭で振り返ったりした。逃げる技の名称が「洗濯ばさみ」など児童になじみがあり、楽しく講座を受けていた。

・ 専門家の話の後、担任が補足・確認をした。

・ 自分の身を守ろうという意識が高まった。

・ 自分の身を守る方法について、下校時などの時間を使って、改めて指導することができた。

・ 「トイレは危険」など、今まで知らなかったことを教えてもらい、児童は驚いていた。その後、学級でも「自分の身を守ること」について担任が指導した。

△ 楽しく学ぶことができていたが、内容量が多く、1年生の5月では、何が大切なのかよく分かっていないようだった。

小1（性）「どこがちがうの おとこのこおんなのこ」

・ 「性器」という言葉を初めて知り、また、男女で性器の形や役割が違うことも初めて知った児童が多かった。「性器を大切にしなければいけない」という意識をもったと思う。

△ 例年は、水泳の時期にプライベートゾーンや男女の違いについて指導するが、今年度も水泳の授業がなかったため、指導のタイミングを逸してしまった。

小2（生）「わたしのたいせつないのち」

・ 生活科のカリキュラム「あしたへジャンプ」に関連付けて、今までの自分を振り返って学習できた。

・ 学年の実態に合わせ、夏休み前に、男子は教頭、女子は養護教諭が指導した。担任とは違うベテランの男性教頭が指導したことで、しっかり話を聞くことができた。

小2（性）「おへそのひみつ」

※保健センター助産師との連携

- ・お腹の中の様子やお母さんの気持ちを聞くことができ、勉強になった。
- ・どの児童も話を真剣に聞いていた。自分自身も大切に育てられてきたことを改めて感じる事ができていた。
- ・生まれる前の命の大きさや成長の様子について、（助産師の話を）前のめりになって興味をもって聞いていた。授業後、家庭で「自分が母親のお腹の中にいたときの様子」を聞いたり、母子健康手帳を親子で一緒に見たりする児童もいた。
- ・意欲的に学ぶ事ができていた。また、生活科に関連付けて学ぶ事ができた。
- ・赤ちゃん人形を見ながら、命の始まりから誕生までの成長の様子を学習した。命の大切さ、素晴らしさが児童の心に残る授業となった。
- ・改めて命の大切さを感じ、自分の存在について考えるよい機会となった。
- ・（初めて会った助産師だったが）経験豊富で話が面白く、教師も児童も引き込まれた。
- ・分かりやすい説明や具体物（人形や掲示物）で、児童は真剣に耳を傾けていた。命の大切さ（自分の大切さ）を考えられるよい機会だった。
- ・道徳「生まれるということ」に関連付けて生命の大切さについて考える事ができた。
- ・生活科の授業につなげ、理解を深める事ができた。
- ・実際に赤ちゃんを見せていただいたり、心音を聞かせていただいたりして、有意義な時間となった。

小3（生）「テレビ、ゲームとのつきあい方を考えよう」

- ・「タイマーをかける」「家の人とゲームの時間を決めて約束する」など、考える機会となった。
- ・動画視聴やゲームの時間を振り返ることで、（ゲームなどを）

やり過ぎていたことに気付くことができた児童が多かった。

△小3でもゲームで課金している児童がおり驚いた。気を付けたいという意見はたくさん出るが、その後調査してみるとゲームの時間は減っていないので（指導の）難しさを感じる。

△テレビよりもゲームに興味を示していた。さらに今はスマホ（タブレット端末）の問題もあり、アンケートによると、既に他人（知らない人）とオンラインでつながっている児童もいるので、話題に入れて授業を実施した。

△テレビよりも、ゲームや配信動画（YouTubeやTikTokなど）を一日中見ている児童が多く驚いた。

△ゲームの弊害について、児童に分かりやすい資料があるとよい。

△実態として、ほぼ全員がゲームをしている。児童だけでスケジュールを立てて自制することは困難な様子だった。

小3（性）「未来にいのちをつなげるために」

- ・養護教諭が実施した。授業後も「私は〇〇グラムで生まれたってママが言っていた」など生命誕生についての話をしていた。児童にとって、自分の祖先が何万人もいるということは印象に残ったと思う。
- ・生活習慣を整えることの大切さや、命を大切にすることについてよく考えていた。
- ・大切な命について、改めて考えることができた。東日本大震災の発生日前後に行うことで、より効果的な学びが得られた。
- ・道徳で「ヌチヌグスージ（命の祭り）」の指導後に関連付けて実施する。

小4（生）「自分やまわりの人を大切に」

- ・友だちのよさを見直すよいきっかけになった。
- ・道徳教材「生きているしるし」の授業後、学級活動で担任が実施した。内容が重複しているが、復習として有効活用した。
- ・セルフディフェンス講座で専門家の話を聞いた後、関連させて学級活動で担任が実施した。

小4（性）「かわっていく ぼくたちわたしたち」

- ・適切な内容であり、必要な内容であった。
 - ・養護教諭が、思春期の体の変化について授業を行った。大人に近づくと体つきにどのような変化が起こるのか知ることができ、児童は興味深く参加できた。
 - ・養護教諭による授業で、児童は真剣に話を聞いていた。
 - ・男女の体の変化や違いを学び、恥ずかしさを見せながらも興味をもって取り組んだ。特に1年生から4年生の身長伸びを確認して、自分たちの成長をふりかえるとともに、体の変化や心の悩みに個人差があってもよいということを学び、安心したという感想をもった。
 - ・保健教材「育ちゆく体とわたし」（4時間）の授業後に、関連させて学級活動で担任が実施した。保健学習のふりかえりとして活用した。
- △命をつなげるということに関して、今の時代に合った伝え方をすることに少し難しさを感じた。

小5（生）「男らしさ女らしさについて考えよう」

- ・障がい者疑似体験を行った。障がい者の方の気持ちに立つことがあまりないため、とてもよい経験になった。
- ・福祉の授業と絡めて行った。真剣に取り組めた。
- ・社会福祉協議会に協力をいただき、福祉実践教室を実施した。点字や車椅子、高齢者疑似体験などを実際に体験することで、学習内容を深めることができた。
- ・男女関係なく、様々な職業に就いている人の写真を見せるなどして、児童の既成の男女観を揺さぶる指導をすることができた。
- ・ジェンダーについて考えたが、児童にとって男らしさ女らしさという概念はあまりないようである。社会にその考え方が一般化してきているように感じる。

小5（性）「すばらしい命」～生命のたんじょう～

（意見なし）

小6（生）「自分で守る心とからだ」

・警察の方に来ていただき、薬物乱用防止教室と合わせて、SNSや出会い系の危険性について話していただいた。ロールプレイもあり、分かりやすかった。

・ラインや SNS 被害について今一度再確認のように指導できた。自分のスマホを持っている児童は身近に感じたようだ。

小6（性）「エイズ 共に生きる」

・児童は意外と「エイズ」という言葉自体知らないのでは（指導して）よかったと思う。

・保健の学習に関連させて学習した。まだ幼さが残る児童が多いので、指導前は自分たちに関係ないものと考えていた。

小学校（生・性）

・小6は、2つの内容を合わせて実施している。今回は、東大前の事件について触れ、命の成長と大切さ、育んでもらったことへの感謝とともに、生きていく中での時々目標、うまくいかなかった時の考え方、ゴールの設定などまで考える時間にすることができた。

△小4（生・性）は、内容を変更するのも一考と感じた。

【中学校】

中1（生）「心を守る からだを守る」

※セルフディフェンス講座（外部講師による学習）

・年度当初から年間行事に組み込んで実施した。

・専門家の話を聞いた後、各学級で「すぐに実践していきたいこと」を中心に意見を出し合いながらふりかえりを行った。活発に意見が出て、生徒の印象に残る授業となった。

△小学校での内容と重なる部分があるので、社会状況や生徒の実態などを踏まえ、精選されるとよいと思う。

△心が傷ついた体験が思い起こされて、辛そうな生徒がいた。指導が難しくなってきたと担任の意見があった。

中 1（性）「自分らしさって何だろう」

・保健体育科の授業で教科担任が指導した。多くの生徒が内容に興味深く耳を傾けた。

・生き方学習として、各担任が自身の経験を他の学級でも話した。生徒は、興味深く聞き、多様な生き方、考え方に触れることができた。

・「思春期橋を渡ろう」をテーマとして、自分の思春期について考える学年集会を行った。学年の教師による演技もあり、思春期の自分について考えることができたようだった。

△男女一緒に授業をする上では答えにくい内容のアンケートもあったので、表現を工夫していただけるとありがたい。

中 2（生）「手軽な出会いに潜む危険」

・KDDIの「スマホ・ケータイ安全教室」を行った。

・学級活動で実施し、SNSでの返信や実際に会うかどうかを考えさせるなど、カリキュラムの指導案をアレンジして行った。

中 2（性）「人を好きになる心」

～異性との付き合い方について考えよう～

・学年集会で実施した。性的マイノリティにも触れ、（指導案を）アレンジして行った。

・学年集会で行い、デートDVやLGBTQについても触れた。

△ジェンダーの問題が社会でも指摘されているため、内容の見直しをしていただけるとありがたい。

中 3（生）「すてきな大人になろう」～自立ってなんだろう～

・生徒が自分自身を振り返ることができ、「自分を大切にしたい」「自分らしく生きたい」という感想を引き出すことができた。

・ロイロノートなどを活用し、自立することについて深く考えさせた。

△今年度は実施できなかった。日程調整が難しいが来年度は計画していきたい。

中 3（性）「すてきな大人になろう」～性感染症の予防～

・保健体育の授業時間に合わせて行った。

※保健センター保健師との連携

・保健センターの協力ありがたい。赤ちゃん人形を2セットお借りすることができてよかった。

・学年全てを集めることなく、1学級を対面で、2学級をオンラインで実施した。どの学級も興味関心をもって話が聞けた。コロナ禍で集まれないため色水実験は行わなかったが、イラストなど工夫されており、生徒はよく理解していたと感じた。授業後のふりかえりでも、一人ひとりの理解の深まりを感じた。

・学年の教師から実施時期の希望を聞き、保健師と相談し、生徒の実態を踏まえて、（生）の内容についても一緒に指導していただいた。

△2月下旬に計画していたが、まん防のため中止した。

△実施時期が難しい。

特別支援学級（生・性）

・プライベートゾーンについて知り、それに絡め SNS やメールで（画像などを）送ってはいけないことについて学習した。生徒は自分の生活を振り返ることができ、自分が行っていた NG 行動を知ることができた。

中学校（生・性）

・1年（生）はセルフディフェンス講座、2年（生）はネットモラル講座を外部講師により実施した。カリキュラムのねらいに準じた指導を行った。

・コロナ禍前は学年で指導をした場合もあったが、全カリキュラム原則学級単位（一部2学級）で指導した。

・2月に学校に届いたリーフレット「ひとりひとり さまざまな性」（発行：小牧市こども未来部 多世代交流プラザ）を2月～3月の指導後に配付した。大変役立ったので、来年度以降も配付してもらえるとありがたい。できれば、年度前半に学校に届くと

よいと思う。

・命の大切さについては、コロナの影響か、真剣に取り組む生徒が多かった。

・中2、中3では、（宿泊）行事延期のため、実施時期を変更した。一昨年は休校で実施できなかったことを考えると、時期を早めるという判断ができてよかった。

△コロナ対策をしながらの実施のため、学年ではなく、学級で実施する場合があった。また、体験活動を一部カットしなければならなかった。

△（本校では）「生と性のカリキュラム」の位置づけが曖昧で、誰が主体となって実施計画を立てるのか明確になっていないこと、コロナの影響で行事がずれたことから、実施時間が取れなかった。保健体育の授業や道徳、学校保健委員会の機会に無理に入れてもらって何とか実施した。

△カリキュラムの意図や目的、内容は冊子を見れば分かるが、「実施するために、誰がどう動くのか」ということが明記されていないので、組織図や指導体制のようなものが載っていると先生方にお問い合わせしやすいと思う。